

シニアネットワーク東北 平成 23 年度活動報告

1. 第 3 回定期総会

日時 平成 23 年 6 月 7 日 (火) 15:00~17:00

場所 東北原子力懇談会会議室

総会后東北電力原子力部の大谷部長が講演

「東北地方太平洋沖地震による女川原子力発電所の状況について」

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成 23 年 5 月 26 日 (木) 10:00~16:50

場所 住友生命仙台ビル第 1 会議室

参加者 SNW東北 7名、SNW連絡会 7名、新入社員 46名と対話。

基調講演 1 ; 宅間正夫氏 「福島事故と今後の課題」

基調講演 2 ; 角南義男氏 「世界と日本のエネルギー事情・原子力の果たすべき役割・次世代を担う若手への期待」

東北電力では原子力発電所の保守要員の強化を目的として、通常より多くの新入社員を採用している。シニアとの対話は新入社員教育の一環として新人の原子力に対するモチベーションを高めるために効果的との考えから実施されて来たが、今回は特に 3 月の地震・津波による福島第一原発の事故の影響で新人には放射線に対する不安と原子力発電所再稼働の可否に対する不安が強かったため、対話の効用は例年より一層大きかったと思われる。例年女川原子力発電所構内で実施されてきたが、今年は 3 月の津波の影響で通勤・宿泊の手配が出来ないため仙台市内での実施となった。

(2) 山形大学 (2 回目) SNW連絡会との共催

日時 平成 23 年 7 月 16 日 (土) 10:00~17:00

場所 山形大学理学部大講義室他（小白川キャンパス）

参加者 理学部、工学部、農学部の教養課程 1 年生 53 名、
地球環境学科 4 年生 9 名、一般公募市民 4 名（講義のみ参加）
SNW 東北 8 名、SNW 連絡会 8 名

基調講演 坪谷 隆夫氏 「高レベル放射性廃棄物」

講演後、学生と昼食を共にした後、午後 3 時間 8 グループに分かれて対話した。なお、対話交流に先立ち 7 月 13 日「原子炉と発電」「福島原電と今後のエネルギー問題」と題して、学生と一般市民を対象に SNW 副会長の斎藤伸三氏が講演している。

（3）仙台高等専門学校（2 回目）

日時 平成 23 年 10 月 21 日（金） 13:15~17:15

場所 仙台高等専門学校（名取キャンパス）専攻科棟 マルチメディアルーム

参加者 仙台高専 専攻科 2 年 33 名、 SNW 東北 8 名

基調講演 1 清野 浩氏 「放射線と放射能」

基調講演 2 菊地 新喜氏 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演の後、4 グループに分かれて対話を行った。100 分間対話を行い、対話の内容について各グループから報告を聞いた。

学生は全員真剣に議論し、テーマの設定、論点の整理、集約などに大変好感が持てた。なお、福島事故がまだ収束せず、マスコミの煽るような情報が多い中、次世代を担う学生が原子力に対して極めて冷静に評価していること、また、海外飛躍を希望する学生が多数いることにも感銘を受けた。頼もしい学生さんたちだ。

（4）東北大学工学部 SNW 連絡会との共催（6 回目）

日時 平成 23 年 10 月 26 日（水） 13:00~18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 60 名、教官 5 名

SNW 東北 6名、 SNW 連絡会 10名

対話の前日、SNW 連絡会の主要メンバーが講師となり福島原発事故後の日本の原子力の将来や今後の原子力発電の安全性向上対策などについて特別講義が実施されている。対話は8グループに分かれて行われ、マスコミの脱原発の風潮から原子力の将来に不安を持つ学生は例年以上に熱意が感じられ、有意義な対話ができる。

(5) 青森大学 (2回目)

日時 平成23年10月28日(金) 9:00~11:40

場所 青森大学 第5会議室他

参加者 青森大学ソフトウェア情報学部 矢萩教授他 学生 30名

SNW 東北 8名

基調講演1 菊地新喜氏 「地球環境、エネルギー問題」

基調講演2 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

各30分の基調講演の後、4グループに分かれて60分間の対話を行い、対話の結果について各グループから報告を聞いた。エネルギー問題についても放射線のリスクについても正しい知識が非常に大切であること伝えたかったが、十分議論するには時間が短すぎたようだ。しかし少しでも考える機会にはなったと思われる。

(6) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (6回目)

日時 平成24年2月20日(月) 13:00~18:20

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 約30名(原子力地域人材プログラム参加者)

教官 3名、 SNW 東北 4名、 SNW 連絡会 6名

基調講演1 斉藤伸三氏 「福島原子力発電所事故を踏まえた動向」

基調講演1 川合将義氏 「食品中のCs137のリスクを読み解く」

講演は福島事故の原因、経緯、影響等全体を簡潔に説明、また極低レベルの

放射能の人体へのリスクについて平易で詳しい説明があった。

講演の後、5グループに分かれて約1時間半の対話をし、終了後各グループからの報告を聞いた。短時間の対話だが学生の皆さんが原子力に前向きに議論されていることが実感できた。

(7) 東北学院大学 (4回目)

日時 平成24年2月22日(水) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部 多賀城キャンパス 3号館2F

参加者 工学部3年生、4年生、院生 32名

SNW東北 10名

基調講演1 岸 昭正氏 「エネルギー・環境問題と原子力の役割」

基調講演2 山田信行氏 「放射能と放射線」

各40分の講演の後、5グループに分かれて約1時間半の対話を行った。その結果について各グループの代表からの報告を聞いた。

対話の内容は「原子力発電は必要かどうか」と「放射性物質の安全基準はどうなっているか」という点に集中していたが、対話の中ではマスコミの脱原発の風潮に対して原子力発電は必要であるとの認識を持ってくれたようだ。

(8) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催 (2回目)

日時 平成24年3月8日(木) 9:45~13:35

場所 長岡技術大学 総合棟7Fシステム安全専攻講義室

参加者 高専生(全国から)17名、長岡技科大生5名、大塚教授、他に新潟県原子力活用協議会から6名の一般聴講があった。

SNW東北 2名、SNW連絡会 9名

基調講演 石井正則氏 「福島第一原発事故の教訓を踏まえたこれからの原子力人材育成」

今回の対話では昨年3月に発生した福島原発事故後の原子力をとりまく諸問

題、特に原子力技術者と社会とのコミュニケーション問題に焦点を当て、シニアと対話することにより学生の理解に資することを目的としていた。

なお、大学側ではこの対話会を高専機構原子力人材育成事業の一環として行い、24年度から開設する原子力システム安全工学専攻での講義「技術コミュニケーション論」の試行に位置付けている。

対話は5グループに分かれてコミュニケーションということを中心に行った。学生側は長岡技科大生の他、全国の高専から希望して集まった高専生であり、非常に熱のこもった対話となり感動的であった。

3. 勉強会

総会や拡大幹事会（公開）に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

(1) 第1回勉強会

日時 平成23年6月7日（火）15:50~17:20

場所 東北原子力懇談会会議室

参加者 SNW東北 22名

講師 東北電力原子力部 大谷順一部長

テーマ「東北地方太平洋沖地震による女川原子力発電所の状況について」

総会後に実施したもので、会員から多くの希望があった東北電力の地震・津波の影響、現状と今後の見通しについて学んだ。福島第一原子力発電所事故の状況についても情報を得た。

(2) 第2回勉強会

日時 平成23年7月7日（木）16:00~17:25

場所 東北電力本店1F会議室

参加者 SNW東北 18名、東北電力 1名、東北原子力懇談会 6名

講師 在日フランス大使館原子力担当参事官

ピエール・イヴ・コルディエ氏

テーマ 「フランスの原子力事情」

フランスは原子力か再生可能エネルギーかの選択ではなく、その両方が必要との考えを取っており、両方に投資している。原子力はエネルギー・ミックスの一部であり、将来もそうあり続ける。使用済み燃料はリサイクル利用の方針であり、1200Mt 以上が MOX 燃料として利用されている。

長期的にはより安全性を高めた第 4 世代炉に移る。また核融合炉に向け ITER の研究も続ける。ストレステストも実施しており 2~3 か月かけて評価する。ハイテクの国である日本での原発事故に衝撃を受けており、反対派は活動を強めている。講演終了後、東北電力本店ビルの 16 階会議室で意見交換会が催された。

(3) 第 3 回勉強会

日時 平成 23 年 12 月 12 日 (月)

場所 東北原子力懇談会会議室

参加者 SNW 東北 18 名、東北原子力懇談会 2 名

講師 東北電力原子力部 大谷順一部長、加藤功副部長

テーマ 「女川・東通原発の安全性向上対策の進捗状況」

原子力発電所の再稼働でその前提となっているストレステストおよび安全性の向上対策については会員の関心が最も高く、対話活動の上でも必須の情報であるため、6 月に引き続き東北電力の現状を講演して頂いた。

また終了後、ビル地下のレストランで反省会を行った。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第 4 火曜日 (必要に応じて臨時)

(1) 第 23 回 平成 23 年 4 月 14 日

(2) 第 24 回 平成 23 年 5 月 24 日

(3) 第 25 回 平成 23 年 6 月 28 日

(4) 第 26 回 平成 23 年 9 月 21 日

(5) 第 27 回 平成 23 年 11 月 2 日

(6) 第 28 回 平成 24 年 1 月 18 日

(7) 第29回 平成24年2月13日

(8) 第30回 平成24年3月29日

5. SNW 連絡会運営小委員会への参加

原則毎月第3木曜日（8月は休会）（場所）原子力技術協会会議室

情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成23年度参加講演会，シンポジウム，見学会

(1) エネルギー問題に発言する会 月例講演会

SNW 連絡会運営小委員会と同日の午後開催されており、SNW 東北から毎回1名程度参加して情報収集を行った。

(2) 参加シンポジウムなど

・SNW第12回シンポジウム

主催：SNW連絡会 共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）

日時 平成23年8月6日（土）

場所 東京大学武田先端知ビル7階

「どうするこれからの原子力 — 福島第一原子力発電所事故を踏まえたわが国の原子力の今後」と題して開催され、一般市民も含め約200名が参加した。SNW 東北から2名（高橋謙治、山田信行）参加した。

・第5回 東北原子力シンポジウム

主催 日本原子力学会東北支部

共催 日本保全学会 東北・北海道支部

日時 平成23年10月18日（火）10:30~17:50

場所 青森県六ヶ所村交流プラザ・スワニー大会議室

参加者 一般 77 名、学生 26 名 見学会参加者 32 名

翌 19 日（水）には、電源開発(株)大間建設所、RFS(株)リサイクル燃料備蓄センター建設現場、東北電力(株)東通原子力発電所の見学会があり、SNW東北より山田信行が参加した。学生 26 名は東北大学の量子エネルギー工学科学生。

・第 2 回南東北原子力シンポジウム

日時 平成 23 年 11 月 29 日（火）13:00～17:30

主催 原子力学会東北支部

共催 福島大学大学院共生システム理工学研究科、日本保全学会東北・北海道支部

場所 コラッセふくしま 3 階企画展示室

参加者 石井慶造（支部長）ほか、学生を含め 69 名（懇親会 48 名）

福島第一原子力発電所の事故を直接取り上げるのではなく、事故による放射性物質飛散や除染、農作物等に対する影響、地域に対する諸支援活動等が報告された。SNW東北から 2 名（菅原剛彦、早坂明夫）が参加した。

(3) 見学会

日時 平成 24 年 2 月 21 日（火）

場所 東北電力（株）八戸太陽光発電所（八戸火力発電所に隣接）

参加者 菅原剛彦、早坂明夫、松岡俊司の 3 名

八戸工業大学での対話の翌日、最近完成したばかりのメガソーラの一つである八戸太陽光発電所を視察した。

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新し

ている。

(ホームページ : <http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 23 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大 学	参 加 学 生 数	SNW東北とSNW（東京）の参加者	備 考
7/16(土)	* 山形 大学	62名	SNW東北8名（新田目、菊地、岸、菅原、高橋 （弘）、高橋（謙）、山田、涌沢） SNW（東京） 8名	2回 目
10/21 (金)	仙台大 専	33名	SNW東北8名（岡本、菊地、木村、菅原、清野、 高橋（謙）、早坂、山田）	2回 目
10/26 (水)	* 東北 大学	60名	SNW東北6名（新田目、菊地、岸、菅原、山田、 涌沢） SNW（東京）10名	6回 目
10/28 (金)	青森大 学	30名	SNW東北8名（菊地、菅原、清野、高橋（謙）、 早坂、松岡、宮本、涌沢）	2回 目
2/20(月)	* 八戸 工業大 学	30名	SNW東北4名（菅原、鈴木、早坂、松岡） S NW（東京）6名	6回 目
2/22(水)	東北学 院大学	32名	SNW東北10名（岡本、菊地、岸、菅原、高橋（弘）、 高橋（謙）、松岡、水原、宮本、山田）	4回 目
3/8(木)	* 長岡 技科大 学	22名	SNW東北2名（岸、馬場） SNW（東京）8 名	2回 目

(注) *印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 269名 SNW東北延べ 46名 SNW（東京）延べ 32名

なお、全国大では今年度、愛知教育大学、北海道大学、九州大学、関東複数大学（東大、筑波大他合同）、福井大学、関西複数大学（阪大、近大他合同）、広島商船高専、福岡教育大学、長崎大学で実施している。ただし、SNW東北からは参加していない。

以上